

紀伊國屋書店 100 周年記念企画

電子書籍版『風景』

全 32 巻+別巻 1 揃 701,800 円 + 税

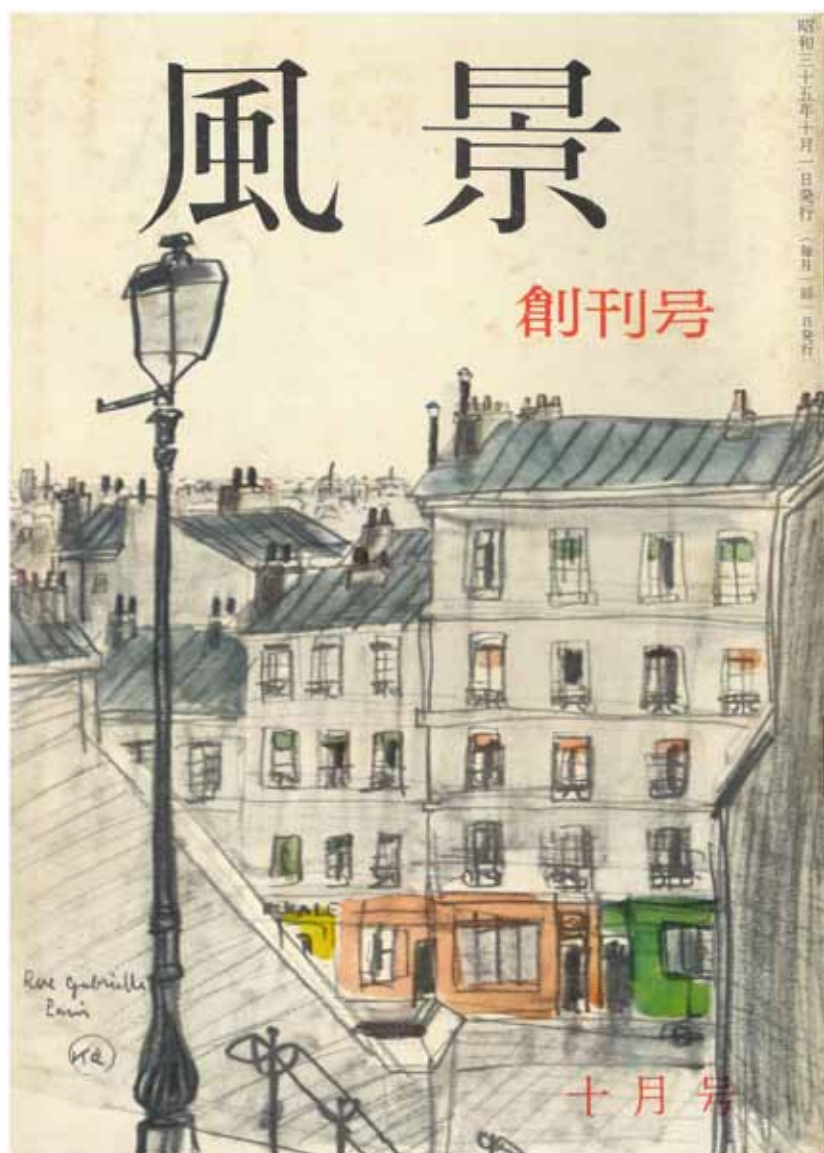
総監修：紀伊國屋書店

監修・解説

宗像 和重（早稲田大学）

日比 嘉高（名古屋大学）

大原 祐治（実践女子大学）



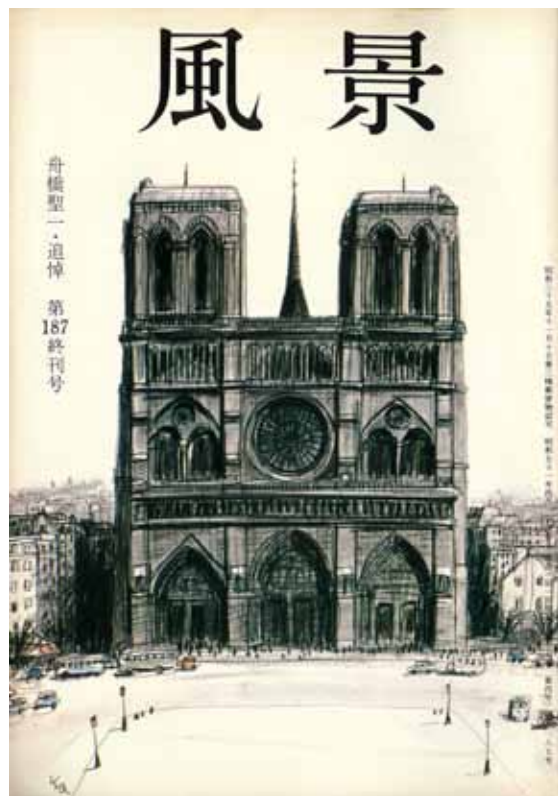
文壇において作家に愛され、
読者はその目次に文壇を俯瞰した雑誌
『風景』。
電子書籍による待望の復刻版。

『風景』について

昭和 35 年（1960）に創刊された『風景』は、来店者に販売促進のため頒布する雑誌として田辺茂一（紀伊國屋書店創業者）が考案し、舟橋聖一を中心としたキアラの会が編集し発行、昭和 51 年（1976）4 月の終刊まで 187 冊が刊行されました。小冊子ながら文芸誌としての体裁を整え、文壇を代表する豪華な作家陣による、小説・エッセイや魅力的な対談が毎号誌面を飾りました。人気挿絵家・風間完による書き下ろし画が表紙という豪華さもあり、多くの読者に愛されました。

今回の電子書籍化に際しては、全文をテキスト化し検索が可能となっております。

別巻には監修者による解説、関連資料を収録する予定です。



【監修のことば】

昭和文学、夕映えの風景 宗像和重

『風景』の三代目編集長・吉行淳之介は、この雑誌を「同人雑誌ではないし、さりとて商業誌でもない、こういう独特でフシギな雑誌」と呼んでいる。気心の知れた、とはいえ偏狭ではない文壇人による伸びやかな編集は、世代を越えた多くの書き手を招き寄せ、書店の組織による発行と配布によって、確実に読者の手元に届けられた。毎号六四頁の三分の一を占める出版各社の広告も、新刊小説や文学全集の魅力を、余すところなく伝えている。終刊号に文章を寄せた古井由吉が「もっとも読まれた雑誌ではないか」と述べるように、この小冊子には、書き手も読み手も健在で、出版社にも書店にも活力があった昭和文学の魅力が凝縮されている。日没前の夕映えの美しさにも似て、その風景は余りにもまぶしく、懐かしい。

『風景』というメディアの再発見 日比嘉高

『風景』の発行部数は、一般商業誌を上回っていたという。書店の店頭で無料で頒布されていたということだけ聞けば、簡易なパンフレットかと想像されるが、そうではない。谷崎潤一郎から大江健三郎に中上健次まで、宇野千代から森茉莉に津島佑子まで、草野心平から西脇順三郎に茨木のり子まで、本当に多彩な顔ぶれが並ぶ。気軽に読めるエッセイもあれば、慣例となっていた座談会（尾崎秀樹や紅野敏郎の文学史的展望企画もある）、そして本格的な創作欄も備える。『風景』というメディアの重要さは、もっと確認されて良いはずだ。それが今回、全文検索が可能となって再登場する。テキスト・データの海の中からどんな景色が浮上するか、楽しみだ。

光源としての田辺茂一 大原祐治

紀伊國屋書店社主であった田辺茂一の発意のもと、舟橋聖一を中心とした作家たちの集まりである「キアラの会」が編集を担い、書店利用者への頒布用に作られたこの雑誌には、世代や文学的な主義主張の違いを越え、実に多くの「文壇」作家たちが動員されている。時に意表をつく組み合わせも登場する本誌掲載の対談や座談会を通読すれば、おのずと「昭和文学史」のアナザーサイドをたどることになるだろう。それはまた、自らも作家として活動しつつ、『行動』[L'ESPRIT NOUVEAU]『紀伊國屋月報』（のち『レヴェンズ』）『文芸都市』など多くの雑誌刊行に関わった田辺茂一という特異な存在を光源として「昭和文学史」を照射し直すことにもつながる。

●『風景』の特色

- ・『文芸都市』『行動』などの雑誌を展開してきた、田辺茂一・舟橋聖一が、もっとも大きく実らせた雑誌が『風景』です。
- ・大家から人気作家、若手まで、当時の文壇で活躍した作家が数多く執筆しています。
- ・毎号、魅力的な対談、座談会が企画され、誌面を彩りました（パンフレット主要目次にすべてを掲載）。

・野口富士男、有馬頼義、吉行淳之介、船山馨、澤野久雄、八木義徳という錚々たる作家が編集長を勤めています。

【『風景』に発表された主要な作品】

舟橋聖一「文芸的グリンプス」／川端康成「落花流水」、「草一花」／井上靖 詩作品／和田芳恵「接木の台」／野口富士男「秋声追跡」、「暗い夜の私」／山川方夫「Kの話」／中上健次「草木（連作短篇）」など、次頁からのパンフレット主要目次をご覧ください。

風 景

創刊号
1969年
10月号

アンケートと棄権 舟橋聖一
ふたたび歴史小説について 山本健吉
時評 倉橋由美子への批評を批評する 十返 華
劇場について 観劇メモ 日下 令光

はじめの放談

福田 恒存
三島 由紀夫
八木 義徳

余暇活用……田辺茂一
族のおわり……風間 完

日 記

源氏鶏太

電話と短刀

吉行淳之介

風 景

創刊号
1969年
10月号

舟橋聖一の死 今日出海
舟橋さんと風景と 佐多稲子
舟橋さんと風景と 山本健吉
舟橋さんと風景と 井上靖
舟橋さんと風景と 源氏鶏太
舟橋さんと風景と 村上元三
舟橋さんと風景と 和田芳恵
舟橋さんと風景と 芝木好子

キアラの会と『風景』

野口富士男
船山馨
八木 義徳
日下 令光



舟橋さんのこと 遠藤周作
舟橋さんのこと 北 杜夫
舟橋さんのこと 三宅 艶子
舟橋さんのこと 古井由吉
舟橋さんのこと 森万紀子
舟橋さんのこと 中上健次
舟橋さんのこと 小田切進



『風景』を彩った画家・風間完

風間完は、1919（大正8）年、東京市京橋（現・中央区新富）に生まれる。1939（昭和14）年、東京高等工芸学校卒業。兵役の後に画家を志し1943（昭和18）年、新制作派協会展に初入選。戦後、雑誌編集者だった兄の繋がりで小説の挿絵を描くようになり、五木寛之「青春の門」、司馬遼太郎「翔ぶが如く」、池波正太郎「真田太平記」など多くの挿絵を手がけた。2002（平成14）年には、その功績で第50回菊池寛賞を受賞。2004年、死去。『風景』の表紙画はフランス留学後ということもあり、水彩画でパリの光景が鮮やかに描かれている。

【風景 主要目次】

昭和35年（一九六〇）通巻1〜3号

10月 舟橋聖一「文芸的グリンプス（*以下略） アンケートと棄権」／「ふたたび歴史小説について」 山本健吉／八木義徳 書評「夜と霧の隅で」

11月 舟橋聖一「ロープ・ウェイと法廷」／座談会 村上元三×源氏鶏太「武士とサラリーマン」／北原武夫「文学的雑談」

12月 舟橋聖一「シラノと暗殺」／座談会 木山捷平×岡岡章太郎「さまざまなる不安」／谷川俊太郎 詩「室内」

昭和36年（一九六二）通巻4〜15号

1月 舟橋聖一「マス・コミと悪妻」／対談 有馬頼義×北杜夫「病巣をめぐって」／字野千代「飼ひ猫日記」

2月 舟橋聖一「チートと国家権力」／対談 川崎長太郎×吉行淳之介「灯火は消えても」／梅崎春生「懲治部隊」

3月 舟橋聖一「ファイトと真価」／対談 高橋義孝×十返肇「三つの現代文学」／平野謙「志賀的なるもの」

4月 舟橋聖一「自由の死角」／対談 井上靖×中村光夫「旅のみのり」／戸川幸夫「アザラシの母子」

5月 舟橋聖一「プライバシーと雪冤」／対談 椎名麟三×小島信夫「純文学のゆくえ」／河上徹太郎「何故書くか？」

6月 舟橋聖一「イワノフ氏への関心」／富田常雄×井上友一郎「新聞小説の特質」／江藤淳「評伝の愉しみ」

7月 舟橋聖一「アマチュアと俗物」／対談 今日出海×武田泰淳「映画を

中心に」／井伏鱒二「五月十六日記」

8月 舟橋聖一「川端さんの寛裕」／対談 亀井勝一郎×山本健吉「国語と言語表現」／井上靖 詩「エトルスカの石棺」

9月 舟橋聖一「杏樹の山荘と友達」／対談 白井吉見×北原武夫「女性と文学」／中山義秀「あまり者」

10月 舟橋聖一「パイパスと筆稿」／対談 谷崎潤一郎×円地文子「伊豆山閑話」／北杜夫 小説「港にぎらく日」

11月 舟橋聖一「ニュー・ゴルフと著作権」／対談 上林暁×佐多稲子「文学者の生活」／奥野健男「文芸時評」

12月 舟橋聖一「古都」と国語問題」／対談 柴田錬三郎×水上勉「いそがしい作家」／小島信夫「神楽坂の易者」

昭和37年（一九六二）通巻16〜27号

1月 舟橋聖一「小説に於ける告白」／対談 廣津和郎×高見順「新春文藝夜話」／藤原審爾「外村夫人のこと」

2月 舟橋聖一「ゴルフの辯」／対談 中村真一郎×篠田一土「作家の不満批評家の不満」／今日出海 小説「偽作」

3月 舟橋聖一「続ゴルフの縛」／対談 頼尊清隆×笹原金次郎「新聞の文学雑誌の文学」／進藤純孝「視園転回の発端」／林房雄「日記」

4月 舟橋聖一「異常児童と自戒」／対談 壺井栄×芝木好子「文学する女性」／伊藤整「二月の日記」／有馬頼義 小説「虚しい」

5月 舟橋聖一「ノーベル賞と税金」／対談 河盛好藏×永井龍男「文学賞

の周辺」／なかのしげはる「人さまざま」／大江健三郎「渡辺一夫教授の最終講義」

6月 舟橋聖一「文士劇と陶酔」／浅見淵×小松伸六「同人雑誌の諸問題」／北川冬彦 詩「風物抄」／徳田一穂「最後の写真」

7月 舟橋聖一「平和憲法と颯子」／対談 大岡昇平×平野謙「批評と実作」／堀田善衛「無題」／田辺茂二「マイクの伴」／川崎長太郎 小説「晩春」

8月 舟橋聖一「形式主義とキャンドル」／対談 幸田文×犬養道子「二代目の帳尻」／杉森久英「能登の畸人」／船山馨 小説「碎かれた船」

9月 舟橋聖一「箱根の山の鯛」／対談 岡岡章太郎×江崎誠致「戦争の中の二人の証人」／野間宏「日本の戦争文学」

10月 舟橋聖一「性」実存とモノロー」／対談 海音寺潮五郎×大井廣介「小説家の史観」／石原慎太郎「小説と「風土」」／木下順二「俳優の魅力ということ―演劇雑感」

11月 舟橋聖一「無法人と文壇人」／対談 池島信平×嶋中鵬二「文学の包装紙」／川端康成「落花流水」

12月 舟橋聖一「センセイシヨナリズムと賛沢」／対談 高見順×田村泰次郎「文士気質の自己診断」／遠藤周作「ユタと小説」／三浦哲郎 小説「村と村人」

昭和38年（一九六三）通巻28〜39号

1月 舟橋聖一「イエスマンと白鳥」／対談 桂ユキ子×北杜夫「原始を見てきた」／白井吉見「田辺博士のこと」／山崎豊子「小説を書く楽しみ」

2月 舟橋聖一「夜ふけと心電図」／対談 開高健×大江健三郎「帰ってきた二人」／芝木好子「東京の今昔」／阿川弘之「月への道」

3月 舟橋聖一「正直と世迷言」／対談 遠藤周作×三浦朱門「原書と訳書の間」／松本清張 詩「集落」

4月 舟橋聖一「襲名と芸能人」／対談 檀一雄×吉行淳之介「小説、みずからの墓碑銘」／戸板康二「新かぶきの持ち役」演劇時評」／堀田善衛 詩「業餘詩集」

5月 舟橋聖一「イ・エレンブルグと知識人」／対談 尾崎士郎×中山義秀「枯淡と執着」／扇谷正造「カクテル・パーティー」／大田洋子「ベルリンの大学生の手紙」

6月 舟橋聖一「サンボリズムと憂患」／対談 立野信之×有馬頼義「実名小説について」／有吉佐和子「草の花」／榛葉英治「とんび（鶯）」

7月 舟橋聖一「習俗と中間小説」／対談 河盛好藏×田辺茂二「本の定価」／白井浩司「戦後文学の命題」

8月 舟橋聖一「平均化と誘惑」／対談 阿川弘之×藤原審爾「閑暇ありて」／野口富士男「秋聲追跡（II）」／八木義徳 小説「居酒屋めぐり」

9月 舟橋聖一「一身体方なし」／対談 今日出海×井上友一郎「遠慮のないところ」／森茉莉「魔利の恋人ジュリエット」／丸岡明 小説「胡桃の木蔭」

10月 舟橋聖一「天才と残酷演出」／対談 木山捷平×深沢七郎「秋の夜譚」／多田祐計「行動文学」以来のこと」／芝木好子 小説「本郷菊坂」

11月 舟橋聖一「国語・改憲・新ファッ

ショ」／対談 芝木好子×澤野久雄「外国ぶらりぶらり」／青山光二「文芸時評」

12月 舟橋聖一「マスコミと暴君」／対談 瀬戸内晴美×河野多恵子「安見児得たり」／倉橋由美子 小説「死刑執行人」

昭和39年（一九六四）通巻40〜51号

1月 舟橋聖一「コントロールと人間」／子母沢寛「日記」／田辺茂二「美容入門」／北原武夫 小説「棘」

2月 舟橋聖一「あるロビーでの対話」／対談 新田次郎×奥野健男「科学者と文学者」／山口瞳「サラリーマンと原稿生活者」

3月 舟橋聖一「価値の滅亡」／対談 今東光×今日出海「兄弟相喰む」／司馬遼太郎「目の中の蚊」／島尾敏雄 小説「捜妻記」

4月 舟橋聖一「国家権力と個人」／対談 水上勉×吉行淳之介「運命だと思ふ」／和田芳恵「野口富士男の「秋聲伝」

5月 舟橋聖一「小説の有用無用」／対談 平岩弓枝×杉本苑子「師、伸・英治のこと」／久保田正文「現代のストイシズム」

6月 舟橋聖一「京・大阪の旅情」／対談 伊藤整×高橋義孝「私の生活と意見」／黒岩重吾「日記」

7月 舟橋聖一「伊藤整氏への挨拶」／対談 新庄嘉章×白井浩司「三田文学早稲田文学の復刊」／石原慎太郎「状況の改修について」

8月 舟橋聖一「撤去すべきもの」／対談 北原武夫×田村泰次郎「おんなの話」／白井喬二「庶民の狐っ花」

9月 舟橋聖一「喜の帯と滑稽」／対

談 伊藤桂一×村上兵衛「ある戦争

体験」／日沼倫太郎「誠実な「滑稽

の演技」／阿部知二「勇氣ある話」

10月 舟橋聖一「スパイと悪名」／対談

和田芳恵×野口富士男「秋聲を追っ

て」／曾野綾子「日記」／富田常雄「牛

なき牧場」／小沼丹「白樺」

11月 舟橋聖一「新幹線とブライバシー

／対談 水上勉×瀬戸内晴美「隣は

何をする人ぞ」／田辺茂一「新宿の

酒場」／吉行淳之介 小説「紫陽花」

12月 舟橋聖一「五輪記者と殺生石」／

対談 三浦朱門・曾野綾子「御同役

如何でござる」／中里恒子「皿小鉢

昭和40年（一九六五） 通巻52〜63号

1月 舟橋聖一「嫉妬と公平」／対談

芹沢光治良×阿部知二「人間の運命」

／野口富士男「秋聲追跡（1）」

2月 舟橋聖一「毒蛇と絶唱」／対談

吉行淳之介×有馬頼義「神経質時代」

／司馬遼太郎「日記」／井上靖 詩「颯

林建国」／杉本苑子「雑感」

3月 舟橋聖一「湯沸し器と孫の話」／

対談 北杜夫×なだいなだ「酒の毒」

／上林暁「書道塾」

4月 舟橋聖一「ギャングと病魔」／

対談 吉屋信子×巖谷大四「年輪の

周囲」／白井浩司「山川方夫のこと」

／船山馨 小説「手の中の風」

5月 舟橋聖一「岸田忌夜話」／対談

永井路子×安西篤子「主婦と根性」

／立原正秋 小説「銀婚式」

6月 舟橋聖一「贅澤と罰金」／対談

中野重治×平野謙「明治を振り返る」

／村山知義「前進座の三十五年」

7月 舟橋聖一「ニヒリズムと執念」／

対談 島尾敏雄×奥野健男「離島の

話」／菊村到 小説「流弾」

8月 舟橋聖一「幸福の中の淋しさ」／

対談 秋山安三郎×戸板康二「劇評

のあり方」／磯田光一「陶酔と明晰

の美学」／水上勉「琴糸の話」

9月 舟橋聖一「団扇と少年俳優」／対

談 小島信夫×佐伯彰一「私」につ

いて」／江藤淳「谷崎文学と「西洋」

10月 舟橋聖一「翠巒と通夜」／対談

野田宇太郎×小田切進「近代文学

研究の礎」／丸谷才一「後鳥羽院と家

隆」11月 舟橋聖一「複視とチェホフ」

／対談 木山捷平×山口瞳「なまけ

もの」／原田康子「困った話」

12月 舟橋聖一「昆布売と武内大使」／

対談 大宅壮一×梶山季之「師弟交

歓」／結城信一 小説「湖畔」

昭和41年（一九六六） 通巻64〜75号

1月 舟橋聖一「手術と明暗」／対談

遠藤周作×瀬戸内晴美「新春放談は

んどうの話」／澁澤龍彦「ヤクザ作

家の出現」

2月 舟橋聖一「乳酸脱水素酵素」／対

談 中野実×尾崎宏次「劇場・演劇・

俳優」／田辺茂一 小説「タキシード」

3月 舟橋聖一「官僚値上げ競争」／対

談 五所平之助×吉村公三郎「監督の

発言」

4月 舟橋聖一「詩人の愛慾像」／対談

平野謙×藤原審爾「中間小説につ

いて」／三浦哲郎「山女釣り」

5月 舟橋聖一「宝石と耳垢」／対談

野口富士男×北條誠×八木義徳「キ

アラ」と風景」／渡辺淳一 小説「点

滴」

6月 舟橋聖一「背水の陣と眼科」／対

談 阿川弘之×三浦朱門「作家の機

動力」

7月 舟橋聖一「国語表記と過激派」／

対談 黒岩重吾×梶山季之「風土と

人間と」／辻井喬 詩「沈んだ花」

8月 舟橋聖一「旅吟夜話と眼底」／

対談 大岡昇平×戸板康二「毀誉褒貶

／川上宗薫 小説「消えた表情」

9月 舟橋聖一「残照と灯籠流し」／対

談 尾崎秀樹×武蔵野次郎「歴史小説

の面白さ」／今東光「隣の椅子 断片」

10月 舟橋聖一「紅色テロと新町名」／

対談 田村泰次郎×田辺茂一「現代

と作家」／丸谷才一 小説「贈り物」

11月 舟橋聖一「『累』と立見席」／対

談 藤島泰輔×野坂昭如「悪口をい

おう」／北杜夫「私は癖病である」

12月 舟橋聖一「掻いなどて篝火」／対

談 武田泰淳×小松左京「SFを探る」

／山口瞳 小説「少年老い易く」

昭和42年（一九六七） 通巻76〜87号

1月 舟橋聖一「公私と楽屋」／対談

利倉幸一×安藤鶴夫「花道の裏側」

／廣津和郎「日記」／芝木好子 小

説「つわぶきの花」

2月 舟橋聖一「白金加金と答申」／対

談 中村光夫×奥野健男「批評の構

図」／庄野潤三「無駄あし」

3月 舟橋聖一「人相と欲求不満」／対

談 安岡章太郎×吉行淳之介「短篇

小説の課題」／岡本太郎「日記」／

辻邦生 小説「見知らぬ町にて」

4月 舟橋聖一「繁栄と衰弱」／対談

串田孫一×北杜夫「山と虫と人間と

／椎名麟三 小説「錆びトタンの刃」

5月 舟橋聖一「学校群と平均化」／対

談 伊藤整×狩野近雄「新聞小説の

曲り角」／野口富士男 小説「その

日私は」

6月 舟橋聖一「文化遺産と求道」／対

談 福田清人×山室静「児童文学を

展望する」／円地文子「晩春日記」

7月 舟橋聖一「保名」と係蹄」／対

談 平野謙×澤野久雄「モデル小説

あれこれ」／田宮虎彦「五月日記」

／野村尚吾 小説「銅像」

8月 舟橋聖一「スタミナと知識」／対

談 和田芳恵×巖谷大四「文壇 昨

日」今日」／北杜夫 小説「無為徒食」

9月 舟橋聖一「香煙と横光論」／対談

水上勉×司馬遼太郎「旅の話」／

西脇順三郎 詩「風景」／田辺茂一「ひ

とり居」

10月 舟橋聖一「黒い雪」と三保便り」

／対談 河盛好蔵×山本健吉「全集

ブームに物申す」／池田みち子 小

説「隅田館」

11月 舟橋聖一「長寿と共同体原理」／

対談 伊藤整×沢川驥「評論の構造」

／中村真一郎「批評の面白さ」

12月 舟橋聖一「汚れた手」と兵役拒

否」／対談 宇野重吉×尾崎宏次「商

業演劇を怒る」／檀一雄「ポリタイ

アについて」

昭和43年（一九六八） 通巻88〜99号

1月 舟橋聖一「高雄ウエイと桐一葉」

／対談 高橋義孝×山口瞳「江戸前

師弟放談」／なだいなだ 小説「二十

年のあと」／水上勉 小説「瞽女」

2月 舟橋聖一「沙翁と文楽」／対談

山本太郎×谷川俊太郎「詩を考えて

みる」／磯田光一「十返肇論」／澁

澤龍彦「拳玉考」／野口富士男 小

説「ほとりの私」

3月 舟橋聖一「灯ともし頃と靴」／対

談 石井幸之助×林忠彦「カメラの

中の文学」／小松伸六「羞恥心と文学」

／渡辺淳一 小説「浜益まで」

4月 舟橋聖一「血糖と五色豆」／対談

里見弴×井上靖×野口富士男×有

馬頼義「里見弴氏とその文学」／川

端康成「二草一花」／井上靖 詩「二

月」

5月 舟橋聖一「入院と文壇憂色」／対

談 宮本常一×水上勉「日本の原点」

／奥野健男「現代文学における創造

と模倣について」／丸山健二 小説

「雁風呂」

6月 舟橋聖一「退院と和平交渉」／対

談 吉行淳之介×野坂昭如「軽薄の

すすめ」／平野謙「戦時下の一雑誌

のこと」／佐多稲子「田村俊子会の

こと」

7月 舟橋聖一「ハリケーンと今昔」／

対談 石川達三×有馬頼義「著作権

法の問題点」／平林たい子「文学賞

とその選」／小川国夫 小説「心臓」

8月 舟橋聖一「夏至と検印紙」／対談

遠藤周作×三浦朱門「宗教・生活・

文学」／吉川幸次郎「三好達治遺品」

／和田芳恵「風致区」

9月 舟橋聖一「極彩色と生世話物」／

対談 大岡昇平×阿川弘之「兵共が

夢の跡」／大城立裕「沖繩の季節感」

10月 舟橋聖一「A感覚とトマトジュー

ス」／対談 永井龍男×井上友一郎

「東京の文学・大阪の文学」／小島政

二郎「廓言葉日記」

11月 舟橋聖一「廣津さんと年月」／対

談 芹沢光治良×中島健蔵「小説の

中の近代史」／倉橋由美子「街頭詩人」

／井上光晴 小説「鉄のような海」

12月 舟橋聖一「受賞と米寿」／対談

五木寛之×三好徹「われら第四の新人」／夏堀正元 小説「崩れる」

昭和44年（一九六九）通巻100～111号

1月 舟橋聖一「一中節と軟風」／対談

野口富士男×有馬頼義×吉行淳之介×澤野久雄×船山馨「百号を顧みて」／水上勉 小説「冬柿」

2月 舟橋聖一「立見席と平等」／対談

羽仁進×寺山修司「興味の持ちかた」／原田康子 小説「十姉妹」

3月 舟橋聖一「夢と学園」／対談 河

野多恵子×丸谷才一「純粹への希求」／萩原葉子 小説「電話とノイローゼ」

4月 舟橋聖一「特別車と妹背山」／対

談 平野謙×小島信夫「文芸時評」の限界」／高橋義孝「芸術と文学と」

5月 舟橋聖一「巨大大科学と郵便物」／

対談 武田泰淳×和田勉「文学と映像との離反」／城山三郎「昼の素顔」

和田芳恵 小説「そんな形で」

6月 舟橋聖一「アイバンクと拒否権」

／対談 久保田正文×白井浩司「若い作家の傾向」／野口富士男 小説「深い海の底で」

7月 舟橋聖一「鹿子まだらと源氏輪講」

／対談 木下順二×朝倉摂「演劇をどうつかむか」／室生朝子「家事労働」

／船山馨 小説「島原にて」

8月 舟橋聖一「ヒットラーと入れ歯」

／対談 遠藤周作×大久保房男「文芸雑誌とは何か」／江崎誠致 小説「影」

9月 舟橋聖一「宇宙船と癡王」／対談

平野謙×野口富士男「昭和十年代

の文学」／佐木隆三 小説「父は帰らず」

10月 舟橋聖一「文壇の友情と夏の終り」

／対談 井上友一郎×高橋義孝「秋の夜がたり」／茨木のり子 詩「殴る」

11月 舟橋聖一「女と男と犠牲」／対談

佐伯彰一×窪田般弥「エロスとの繋がり」／山口洋子 詩「旅の終り」

12月 舟橋聖一「黒い雪」と「助六」

地合せ」／対談 川崎長太郎×八木義徳「人生の歳末」／日野啓三「空間の文学」

昭和45年（一九七〇）通巻112～123号

1月 舟橋聖一「倫理と組織悪」／対談

佐多稲子×芝木好子「女流作家の出發」／中野重治「日記」／津村節子「昔顔の人」／瀬戸内晴美 小説「線路ぞい」

2月 舟橋聖一「火事騒ぎと邦楽」／対

談 山本健吉×井上靖「ここにある断層」／草野心平 詩「鮭の道」／三上慶子 小説「福子の扇」

3月 舟橋聖一「加工品と商業ベース」

／対談 小島信夫×大橋健三郎「混迷の季節」／山田智彦 小説「芍薬」／三浦朱門 小説「髪の毛」

4月 舟橋聖一「羽織と文豪・文弱」／

対談 丸谷才一×開高健「文体は生きている」／海音寺潮五郎「日、西山に傾く」／井上靖 詩「青春」／大原富枝 小説「狐と棲む」

5月 舟橋聖一「松太郎と文六」／対談

武田泰淳×中村真一郎「小説を書く心」／川端康成「一草一花」／吉村昭 小説「少年の窓」

6月 舟橋聖一「時期尚早と枯淡」／対

談 石川達三×三浦朱門「提言・直

言・苦言」／山室静「つぎはぎの感想」

／坂上弘 小説「田舎の眼」／辻邦

生 小説「ランデルスにて」

7月 舟橋聖一「とげ拔地蔵と歌六」／

対談 中野重治×安岡章太郎「作家への道程」／磯田光一「驢馬の耳」私考」／河盛好藏「文学概論」

8月 舟橋聖一「夏の山景色と「州崎の

土手」／対談 篠田正浩×吉田喜重「昭和一ケタ代の映像論」／五木寛之「喋ることと書くこと」／清岡卓行「空転のボエジー」

9月 舟橋聖一「講演「昔嘶」／北條

誠「キアラ」の二十年」／吉行淳之介「風景」の十年」

10月 舟橋聖一「人間国宝と商品価値」

／対談 佐藤忠男×つげ義春「現代と漫画」／中村真一郎「酷暑妄語」／上林暁「若き友人の死」

11月 舟橋聖一「心筋梗塞と銃弾」／対

談 久保田正文×吉村昭「事実と虚構の間」／芥川比呂志「子供の本」

12月 舟橋聖一「入院生活と聖職」／対

談 吉行淳之介×渡辺淳一「診る者・診られる者」／河野多恵子「決定的奇蹟」／野村尚吾 小説「亡友」

昭和46年（一九七二）通巻124～135号

1月 舟橋聖一「根津権現と車椅子」／

座談会 遠藤周作×三浦朱門×北杜夫「新春放談」／有馬頼義 小説「小説「小説作法」

2月 舟橋聖一「カーネーションと珍談」

／対談 戸板康二×巖谷大四「リトル・マガジンについて」／村松剛「天人五衰のこと」／後藤明生 小説「共

3月 舟橋聖一「燕楽軒と文芸都市」／

対談 五木寛之×野坂昭如「日本を

脱け出す？」／吉村昭「学生時代の

同人誌」／小沼丹「鶯」

4月 舟橋聖一「表記の選択と直覚」／

対談 秋山虔×竹西寛子「古典への往還」／開高健「閑低患」／宮原昭夫 小説「玻璃期」

5月 舟橋聖一「表象派と男女の愚行」

／対談 黒井千次×李恢成「何をどう書くか」／阿川弘之「米内提督の進退伺」／耕治人 小説「異変」

6月 舟橋聖一「太陽蝶と市川寿海」／

座談会 舟橋聖一×佐多稲子×吉行淳之介「プロレタリア文学と芸術派」

／斎藤茂太「金山平三画伯」／田辺

茂一 小説「一夜の悪夢」

7月 舟橋聖一「泡鳴伝」と米寿」／

座談会 舟橋聖一×佐多稲子×野口富士男「文学・政治・思想」／生島治郎「パンコク・この楽園」／八木義徳 小説「釘」

8月 舟橋聖一「隅田川と夢」／座談会

福田清人×平野謙×野口富士男「文芸復興期の周辺」／井上靖 詩「晩闇」

／河盛好藏「ガランドホテル」／津

村節子 小説「寒い夏」

9月 舟橋聖一「赤血球と家主長兵衛」

／座談会 洪川曉×中島健蔵×巖谷大四「抵抗と混迷」／曾野綾子「外国旅行」／戸川昌子「脱・だつ・タツ」

10月 舟橋聖一「美しい水鳥とバイオニ

ア」／対談 佐伯彰一×奥野健男「新人の現状」田辺茂一 小説「改裝成る」

／吉行淳之介 小説「薔薇荘」

11月 舟橋聖一「求真と極限」／対談

村上元三×杉森久英「文学のなかの男」／池田弥三郎「日記」／小島政二郎「鴨外」といふ号のいはれ

12月 舟橋聖一「イブセニズムと心理

的演出」／座談会 野口富士男×八

木義徳×船山馨「小説のなかの故郷」

／高橋義孝「ナポレオンの臍」／陳

舜臣 小説「会わなかった二人」ほか

昭和47年（一九七二）通巻136～147号

1月 舟橋聖一「出遣ひと個人小説」／

座談会 巖谷大四×瀬戸内晴美「小説のなかの故郷」／芝木好子 小説「山陰の旅」

2月 舟橋聖一「煙草の害と無常」／対

談 和田芳恵×芝木好子「女流作家の思い出」／網野菊「スフミの便り」

3月 舟橋聖一「白浪狂言と暖冬」／対

談 戸板康二×日下令光「舞台と観客との間」／三木卓 詩「農夫」／田辺茂一「土地つ子」

4月 舟橋聖一「古今伝授と住居表示」

／対談 高井有一×田久保英夫「学校と文学」／秋山駿「批評と小説」

／石坂洋次郎「日記」

5月 舟橋聖一「達成について」／対談

三木卓×吉増剛造「都市と詩」／

北原武夫「女流作家の孤独」／丸山健二 小説「頭痛」

6月 舟橋聖一「川端さんの姿勢」／座

談会 舟橋聖一×澤野久雄×北條誠×船山馨「川端康成氏を偲ぶ」／芝木好子「川端先生の髪」／小田切進「川端さんのこと」

7月 舟橋聖一「吉行氏への書簡」／

対談 遠藤周作×三浦朱門「ローマ・イスラエルへの旅」／磯田光一「極限と日常」／萩原葉子 小説「棘」

8月 舟橋聖一「糖尿三夫婦と水あそび」

／対談 池田弥三郎×芝木好子「下

町散歩」／永井龍男「風貌」／松原新一 小説「懷妊」

9月 舟橋聖一「八月十五日と隠語」／対談 村上元三×巖谷楨一「歌舞伎今昔」／川端香男里「作家の死」／野口富士男 小説「習志野」

10月 舟橋聖一「ファナティズムと青番号」／座談会 津島佑子×富田均×佐々木誠「現代と小説」二十代は語る」／今日出海「旅に思う」／川崎長太郎 小説「山国行」

11月 舟橋聖一「古典口訳の難かしさ」／対談 新田次郎×村松剛「文士と著作権」／吉増剛造 詩「銀河」／安西篤子 小説「三十三間堂」／田辺茂一 小説「ロビイにて」

12月 舟橋聖一「朱門のころ」／対談 五木寛之×長田弘「国境の内と外」／新庄嘉章「見つかった古眼鏡」／藤島泰輔 小説「砂漠にて」 ほか

昭和48年（一九七三） 通巻148～159号

1月 舟橋聖一「文壇的と文学的」／対談 野口富士男×紅野敏郎「昭和十年代文学の見方」／結城信一 小説「天狗の庭」

2月 舟橋聖一「インフレと官僚機構」／対談 野口富士男×紅野敏郎「昭和十年代文学の見方」／森万紀子「でんわ」

3月 舟橋聖一「匿名批評と俗悪語」／座談会 巖谷大四×村松喬×北條誠「日本と外国の境目」／福田清人「海舟の作家評」

4月 舟橋聖一「紅葉評価と投機買占め」／座談会 巖谷大四×村松喬×北條誠「日本と外国の境目（二）」／黒井千次「白い家畜」

5月 舟橋聖一「サンヂカリズムと上尾駅」／対談 和田芳恵×尾崎秀樹「大衆文学の動向」／久保田正文「事実と芸術を模倣する」

6月 舟橋聖一「個性と阿部知二」／対談 野田宇太郎×大竹新助「文学散歩の旅」／井上光晴「魔駅と馬」

7月 舟橋聖一「脱論理と「濁流」」／座談会 丸谷才一×山口瞳「日本語・国語」／田村泰次郎 小説「赤筒」

8月 舟橋聖一「退屈と豹変」／対談 平野謙×中島和夫「文芸雑誌今昔」／西脇順三郎 詩「風景」

9月 舟橋聖一「再びサンヂカリズムに就て」／対談 小島信夫×浜本武雄「小説家と戯曲」／堀口大学 詩「言葉の味」

10月 舟橋聖一「仙貨紙と十全大会」／対談 風間完×野見山晁治「さし絵余談」／小田切秀雄「一つの文学的世代の終り」

11月 舟橋聖一「情報時代とニヒリズム」／対談 新庄嘉章×白井浩司「大学の文学部」／金子光晴 詩「行基卵生説」

12月 舟橋聖一「主知主義と湯島」／対談 中島健蔵×頼尊清隆「文筆家の死」／八木義徳「或る肖像」

昭和49年（一九七四） 通巻160～171号

1月 舟橋聖一「院本と雅川湜の死」／対談 中島河太郎×武蔵野次郎「推理小説あれこれ」／田辺茂一 小説「二本杉」

2月 舟橋聖一「五段目と俗世間」／対談 紀田順一郎×長岡光郎「出版界への展望」／新田次郎「日記 受け

なかった講演」

3月 舟橋聖一「敗北の倫理と英雄主義」／対談 駒田信二×中田耕治「中間小説の現状」／田中冬二 詩「海鼠」

4月 舟橋聖一「海外投資の黒星」／対談 田辺茂二×矢代静一「東京の隅っこ」／耕治人 小説「同人誌をやっていた頃」

5月 舟橋聖一「老母の発病と赤血球」／対談 田久保英夫×後藤明生「ソビエトを旅して」／八木義徳 小説「津軽・十三湖」

6月 舟橋聖一「再入院と輸血」／座談会 樫崎勤×小田切秀雄×野口富士男「新興芸術派のころ」／和田芳恵 小説「接木の台」

7月 舟橋聖一「真理探究と囊腫」／座談会 樫崎勤×小田切秀雄×野口富士男「新興芸術派のころ（続）」／森茉莉「日記」

8月 舟橋聖一「解剖所見と最後の愛」／座談会 坂口三千代×十返千鶴子×田辺茂一「故人のこと」／大岡信「出世作・晩年の作」

9月 舟橋聖一「二中節と天網島」／座談会 荒正人×杉森久英×野口富士男「近代文学のころⅠ」／上林晁「富士の夢」

10月 舟橋聖一「緊張関係と老少不定」／座談会 荒正人×杉森久英×野口富士男「近代文学のころⅡ」／津島佑子「空地の住人」

11月 舟橋聖一「オンラインと原子力船」／対談 船山馨×青山光二×野口富士男「文芸時代」のころⅠ／川村晃 小説「猫股（ねこまた）」

12月 舟橋聖一「泉鏡花とエッセイシズム」／座談会 船山馨×青山光二

×野口富士男「文芸時代」のころⅡ」／源氏鶏太「今年の夏の軽井沢」

昭和50年（一九七五） 通巻172～183号

1月 舟橋聖一「刑法改正と芸術芸能」／対談 古山高麗雄×山口瞳「仕事と遊びの間」／吉村昭 小説「弱兵」

2月 舟橋聖一「残酷な慣例」／対談 暉峻康隆×小沢昭一「風流廓ばなし」／中上健次 小説「欣求」／永井路子 小説「群狼図―白蔵主聞き書」

3月 舟橋聖一「医師の君と大臣諮問」／対談 三好徹×尾崎秀樹「言論表現について」／土方定一「側面像と正面像」

4月 舟橋聖一「往復書簡と占領行政」／対談 河盛好蔵×巖谷大四「敗戦直後の作家」／瀬沼茂樹「未完の作品」

5月 舟橋聖一「迷信と附和雷同」／対談 荒正人×小田切進×野口富士男「昭和二十年代の文学（Ⅰ）」／黒井千次「燃やす」

6月 舟橋聖一「音響過大と危機感」／対談 荒正人×小田切進×野口富士男「昭和二十年代の文学（Ⅱ）」／中上健次 小説「草木（連作短篇・Ⅰ）」

7月 舟橋聖一「秋刀魚と解放政權」／対談 小田切秀雄×磯田光一×野口富士男「昭和三十年代の文学（Ⅰ）」／井上靖 詩「夕映え」／梶山季之「古い物の味」

8月 舟橋聖一「拒絶反応と鱒ずし」／対談 小田切秀雄×磯田光一×野口富士男「昭和三十年代の文学（Ⅱ）」／北條誠「革新というエゴ」

9月 舟橋聖一「林武画伯と初中局」／対談 小田切秀雄×磯田光一×野口富士男「昭和三十年代の文学（Ⅲ）」

／秋山駿「故郷に帰りゆくころ」

10月 舟橋聖一「二者擇一と骨肉不信」／対談 遠藤周作×田村隆一「日本そして日本人」／網淵謙鋭「片隅に小さく」／中上健次 小説「天鼓（連作短篇・Ⅲ）」

11月 舟橋聖一「宗教といふ名の麻薬」／対談 宇野信夫×澤村三木男「昔の芝居今の芝居（Ⅰ）」／中野孝次「プリュージェル余滴」／田辺聖子「源氏物語と演歌の世界」

12月 舟橋聖一「郵便貯金と街娼婦」／対談 宇野信夫×澤村三木男「昔の芝居今の芝居（Ⅱ）」／中上健次 小説「蓬萊（連作短篇・最終回）」

昭和51年（一九七六） 通巻184～187号

1月 舟橋聖一「老は一部の死」／対談 ドナルド・キーン×丸谷才一「新春食譜」／田中冬二「野山菜（ながいも）」

2月 舟橋聖一「グランプリと抗糖尿尿病剤（絶筆）」／対談 池田弥三郎×池波正太郎「隅田川情緒」／井上靖 詩「新しい年」

3月 対談 池田弥三郎×池波正太郎「隅田川情緒」／田辺茂一・井上靖「弔辞 舟橋聖一・追悼」

4月 対談 野口富士男×船山馨×八木義徳×日下令光「キアラの会と「風景」」／今日出海「舟橋聖一の死」／井上靖「風景」と私」／吉行淳之介「編集後記」と私たち」

電子書籍版『風景』

全32巻+別巻1



●【同時1アクセス】揃価格：本体701,800円+税／【同時3アクセス】揃価格：本体1,403,600円+税

●第1回配本・全5巻

【同時1アクセス】揃価格：本体101,200円+税／【同時3アクセス】揃価格：本体202,400円+税 2023年12月刊行予定

- | | |
|------------------------------|---|
| ◆第1巻◆ 昭和35 (1960) 年10月号～12月号 | 【同時1アクセス】 本体13,200円／【同時3アクセス】 本体26,400円 |
| ◆第2巻◆ 昭和36 (1961) 年1月号～6月号 | 【同時1アクセス】 本体22,000円／【同時3アクセス】 本体44,000円 |
| ◆第3巻◆ 昭和36 (1961) 年7月号～12月号 | 【同時1アクセス】 本体22,000円／【同時3アクセス】 本体44,000円 |
| ◆第4巻◆ 昭和37 (1962) 年1月号～6月号 | 【同時1アクセス】 本体22,000円／【同時3アクセス】 本体44,000円 |
| ◆第5巻◆ 昭和37 (1962) 年7月号～12月号 | 【同時1アクセス】 本体22,000円／【同時3アクセス】 本体44,000円 |

●第2回配本・全6巻

【同時1アクセス】揃価格：本体132,000円+税／【同時3アクセス】揃価格：本体264,000円+税 2024年6月刊行予定

- | | |
|------------------------------|---|
| ◆第6巻◆ 昭和38 (1963) 年1月号～6月号 | 【同時1アクセス】 本体22,000円／【同時3アクセス】 本体44,000円 |
| ◆第7巻◆ 昭和38 (1963) 年7月号～12月号 | 【同時1アクセス】 本体22,000円／【同時3アクセス】 本体44,000円 |
| ◆第8巻◆ 昭和39 (1964) 年1月号～6月号 | 【同時1アクセス】 本体22,000円／【同時3アクセス】 本体44,000円 |
| ◆第9巻◆ 昭和39 (1964) 年7月号～12月号 | 【同時1アクセス】 本体22,000円／【同時3アクセス】 本体44,000円 |
| ◆第10巻◆ 昭和40 (1965) 年1月号～6月号 | 【同時1アクセス】 本体22,000円／【同時3アクセス】 本体44,000円 |
| ◆第11巻◆ 昭和40 (1965) 年7月号～12月号 | 【同時1アクセス】 本体22,000円／【同時3アクセス】 本体44,000円 |

●第3回配本・全6巻

【同時1アクセス】揃価格：本体132,000円+税／【同時3アクセス】揃価格：本体264,000円+税 2024年12月刊行予定

- | | |
|------------------------------|---|
| ◆第12巻◆ 昭和41 (1966) 年1月号～6月号 | 【同時1アクセス】 本体22,000円／【同時3アクセス】 本体44,000円 |
| ◆第13巻◆ 昭和41 (1966) 年7月号～12月号 | 【同時1アクセス】 本体22,000円／【同時3アクセス】 本体44,000円 |
| ◆第14巻◆ 昭和42 (1967) 年1月号～6月号 | 【同時1アクセス】 本体22,000円／【同時3アクセス】 本体44,000円 |
| ◆第15巻◆ 昭和42 (1967) 年7月号～12月号 | 【同時1アクセス】 本体22,000円／【同時3アクセス】 本体44,000円 |
| ◆第16巻◆ 昭和43 (1968) 年1月号～6月号 | 【同時1アクセス】 本体22,000円／【同時3アクセス】 本体44,000円 |
| ◆第17巻◆ 昭和43 (1968) 年7月号～12月号 | 【同時1アクセス】 本体22,000円／【同時3アクセス】 本体44,000円 |

●第4回配本・全6巻

【同時1アクセス】揃価格：本体132,000円+税／【同時3アクセス】揃価格：本体264,000円+税 2025年6月刊行予定

- | | |
|------------------------------|---|
| ◆第18巻◆ 昭和44 (1969) 年1月号～6月号 | 【同時1アクセス】 本体22,000円／【同時3アクセス】 本体44,000円 |
| ◆第19巻◆ 昭和44 (1969) 年7月号～12月号 | 【同時1アクセス】 本体22,000円／【同時3アクセス】 本体44,000円 |
| ◆第20巻◆ 昭和45 (1970) 年1月号～6月号 | 【同時1アクセス】 本体22,000円／【同時3アクセス】 本体44,000円 |
| ◆第21巻◆ 昭和45 (1970) 年7月号～12月号 | 【同時1アクセス】 本体22,000円／【同時3アクセス】 本体44,000円 |
| ◆第22巻◆ 昭和46 (1971) 年1月号～6月号 | 【同時1アクセス】 本体22,000円／【同時3アクセス】 本体44,000円 |
| ◆第23巻◆ 昭和46 (1971) 年7月号～12月号 | 【同時1アクセス】 本体22,000円／【同時3アクセス】 本体44,000円 |

●第5回配本・全6巻

【同時1アクセス】揃価格：本体132,000円+税／【同時3アクセス】揃価格：本体264,000円+税 2025年12月刊行予定

- | | |
|------------------------------|---|
| ◆第24巻◆ 昭和47 (1972) 年1月号～6月号 | 【同時1アクセス】 本体22,000円／【同時3アクセス】 本体44,000円 |
| ◆第25巻◆ 昭和47 (1972) 年7月号～12月号 | 【同時1アクセス】 本体22,000円／【同時3アクセス】 本体44,000円 |
| ◆第26巻◆ 昭和48 (1973) 年1月号～6月号 | 【同時1アクセス】 本体22,000円／【同時3アクセス】 本体44,000円 |
| ◆第27巻◆ 昭和48 (1973) 年7月号～12月号 | 【同時1アクセス】 本体22,000円／【同時3アクセス】 本体44,000円 |
| ◆第28巻◆ 昭和49 (1974) 年1月号～6月号 | 【同時1アクセス】 本体22,000円／【同時3アクセス】 本体44,000円 |
| ◆第29巻◆ 昭和49 (1974) 年7月号～12月号 | 【同時1アクセス】 本体22,000円／【同時3アクセス】 本体44,000円 |

●第6回配本・全3巻+別巻1

【同時1アクセス】揃価格：本体72,600円+税／【同時3アクセス】揃価格：本体145,200円+税 2026年6月刊行予定

- | | |
|------------------------------|---|
| ◆第30巻◆ 昭和50 (1975) 年1月号～6月号 | 【同時1アクセス】 本体22,000円／【同時3アクセス】 本体44,000円 |
| ◆第31巻◆ 昭和50 (1975) 年7月号～12月号 | 【同時1アクセス】 本体22,000円／【同時3アクセス】 本体44,000円 |
| ◆第32巻◆ 昭和51 (1976) 年1月号～4月号 | 【同時1アクセス】 本体15,400円／【同時3アクセス】 本体30,800円 |
| ◆別巻◆ 総目次・解説 | 【同時1アクセス】 本体13,200円／【同時3アクセス】 本体26,400円 |



紀伊國屋書店



ゆまに書房

株式会社紀伊國屋書店 学術情報販売促進部 デジタル情報営業部

〒153-8504 東京都目黒区下目黒 3-7-10 TEL.03 (6910) 0518 ict_ebook@kinokuniya.co.jp

株式会社ゆまに書房 営業部 〒153-8504 東京都千代田区内神田 2-7-6

TEL.03 (5296) 0491 FAX.03 (5296) 0493 eigyou@yumani.co.jp